月刊
新翔タイムズ
第13号
新翔タイムズ編集室
発行・南紀州新聞社

高校生による初の絵解き

「語りの熊野詣口演サミット」
新宮職業訓練センターで

総合学習の中で、観光を選択している吉山大地君、戸部衿子さん、浦中紗甫さん、谷沙奈美さんの4人が、世界遺産登録5周年記念事業「語りの熊野詣口演サミット」（新宮職業訓練センター）で、絵解きを実演した。

高校生による絵解きは、初めてとのことで、会場からは温かい声援が送られた。また口演後も、「高校生がそれぞれ旅人・熊野比丘尼（びくに）を演じ、新鮮でとてもよかった」との声が多く寄せられた。

今回の絵解きは、地域連携の一環として、東牟婁振興局や新宮市観光協会・観光ガイドの皆さんの指導によるものであった。

5系列への理解を
1学年系列説明会

1学年の保護者対象の系列説明会を行った。説明会には47人の保護者が出席し、学校長のあいさつの後、丹下教務部長が2・3年次の5系列について説明した。本校では、生徒の希望進路実現のために1年次の「産業社会と人間」で将来の進路や生き方を考え、2年次で自分の進路にあった系列に進む。そのため系列についての理解が必要となり、生徒同様、保護者の皆さんにも系列についての理解を深めてもらうために、毎年この時期に説明会を実施している。

なお本校設定の系列は次の通り。

▽ビジネス系列
生産・流通・消費という経済の仕組みを理解し、経済のサービス化、国際化などに対応するコミュニケーション能力などをもった人材を育成する。企業への就職や秘書・医療事務・観光などの専門学校、商業系大学への進学を目指す。

▽会計系列
会社の経営成績や財政状況を明らかにする仕組みを学ぶ簿記・会計の学習を通して、企業活動の内容を理解する能力をもった人材を育成する。企業への就職や会計などの専門学校、商業系大学への進学を目指す。

▽情報系列
コンピュータの基本的な仕組みやソフトウェアの使用方法などを理解し、ビジネスに必要な情報を活用できる人材を育成する。企業への就職や情報系などの専門学校、商業系大学への進学を目指す。

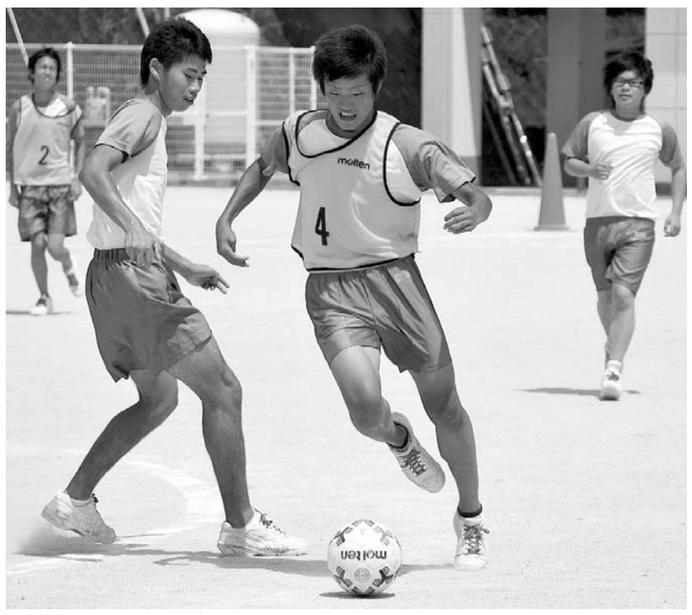
▽教養系列
幅広い知識を身につけ、教養を深めるための多くの科目を設定し、大学・短大・高等看護学校などへの進学や公務員試験に対応できる力を育成する。また、地域の現状と時代の要請に応え、社会福祉に対する幅広い視野と福祉観を身に付けた人材を育成する。

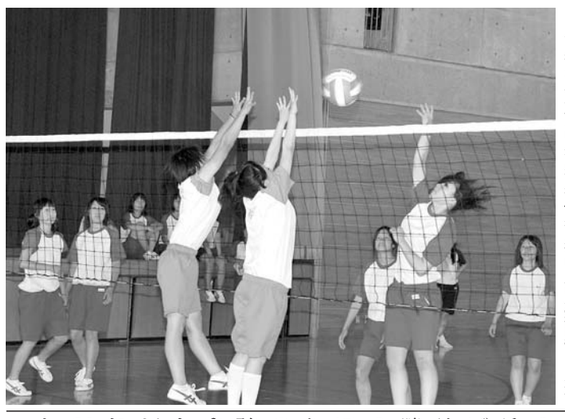
▽建設技術系列
「道路」、「橋梁」、「下水道」、「港湾」などを造るための知識や技術を習得するとともに、防災に関する知識を深め、社会での「ものづくり」を実践できる人材を育成する。企業や公務員への就職や建設系などの専門学校、工業系大学への進学を目指す。

全商簿記実務検定・ワープロ実務検定実施

6月28日、全商（全国商業高等学校協会）簿記実務検定が実施された。三年生10人が受験し、二級に1人、三級に6人が合格した。また7月5日、全商ワープロ実務検定が実施され、一級に4人、二級に11人、三級に45人が合格した。本校では、総合学科に改編された後も、キャリア教育の一環として各種検定・資格の取得に力を入れている。

熱闘 クラスマッチ





7月14、15日の両日、今年度のクラスマッチが行われた。開会式で七瀧校長の激励の言葉の後、上山佳高君と浦中紗甫さんがフェアプレーを誓って、力強く宣誓した。

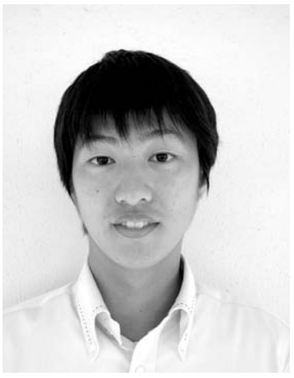
今年も女子は各学年に分かれてバレーボール、男子はサッカーを行った。また、女子は、例年通り、最後に各学年代表同士による、チャンピオンズリーグを実施した。

男子サッカーは、1年生は三勝無敗で2組、2年生は四勝無敗で5組が優勝した。3年生は実力が伯仲し激戦が続いたが、引き分けの試合をジャンケンで勝ち抜くなど強運にも恵まれた4組が優勝した。

バレーボールは、1年生は1組、2年生は3組、3年生は4組がそれぞれ学年優勝を遂げた。チャンピオンズリーグでは、3年生に勝った1年1組と2年3組の決戦となり、手に汗握るラリーが続いた。1年生は竹本さんのサーブ、中野さんの強打、2年生は、槙村さんのサーブ、平野さんの正確なトス回しなどで互いに一歩も譲らなかったが、最後は20―18で2年生が勝利した。

◆先生の紹介◆

鈴木正克先生（25）



はじめまして、4月から新翔高等学校に勤務しています、鈴木正克です。担当教科は数学科で、学年は3年1組の副担任、部活動はバレーボール部の顧問をしています。

私は新宮市出身で、大阪府立大学大学院工学研究科で、「非対角成分に時間遅れを含む微分方程式の零解の漸近安定性」について研究をしていました。修士論文が、アメリカの雑誌〝Discrete And Continuous Dynamical Systems〟に掲載されたことが研究の励みになりました。今、世間では理数離れが叫ばれていますが、生徒には数学の楽しさや面白さを教えていきたいです。

私は生徒指導部に所属し、毎朝「朝の声かけ運動」をしています。あいさつをすることで、人と人とのつながりや人の輪、信頼しあえるコミュニケーションを築ければとの願いで、取り組んでいます。朝のあいさつで生徒のその日の体調や友人関係の悩みに気づき、学校生活に適応していく支援につなげようと頑張っています。

私の好きな言葉に「子ども叱るな来た道じゃ、年寄り笑うな行く道じゃ、来た道行く道二人旅、これから通る今日の道、通り直しのできぬ道」があります。高校生の「今」を大切にし、思いやりのある生徒に成長してもらいたいと思います。創造性を培い、弱いものに対して優しく接することができる「恕」の心を育ててもらいたいという、自分が高校のころの校長先生がおっしゃられた言葉を今でも覚えています。

生徒には一人一人夢と希望をもち、意欲あふれる、魅力的な社会人として成長していってもらいたいと願っています。生徒一人ひとりが、のびのびと楽しい学校生活を送れるように頑張っていきます。これからもどうぞよろしくお願いします。

進路ガイダンスを実施
3年生を対象に

3年生を対象とした進路ガイダンスが行われた。生徒たちは進学の部と就職の部に分かれ、双方とも大原学園より招いた講師の話に熱心に聞き入った。

就職の部では、企業の求めている人物像を主なテーマとして、入社試験の際に気をつけることの説明を受けた。企業ではチームワークが大切なことから、礼儀正しく元気のある人物が求められる。また、主に年上の人と働くことになるので、コミュニケーションをとる力も求められると語った。

「石の上にも三年、しんどくても三年は我慢して続けること」というアドバイスで締めくくった。

一方、進学の部では、まず、進学といっても数年後には就職する。それまでにどれだけのキャリアを積んでいくか、そのために今どのような選択をすべきかをしっかり考えること。一部の学校を除けば、入学することは決して難しくはないが、きちんとした目的意識をもたないと時間と授業料が無駄になる。今は数十年前と違い、実力本位で肩書きなどは通用しない。大切なのは、○○大学・学校に合格することではなく、入学後、いかに頑張るかで、そのために来年の4月までどう過ごすかだ。勝ち残れるいい学校を選ぶには、まず情報を収集してオープンキャンパスへ参加すること。そこで必ず質問をすること。パンフレットにある表面的な記述や数字にごまかされないこと。例えば、就職状況では、どんな企業に何人合格したかで、就職率の高さではない。大学・短大生の3割がダブルスクールで専門学校に通う時代で、企業や社会が上級学校卒業生に求めているのは、真の実力をもつ専門家である。将来の自己実現に向けて良い選択を期待すると語った。

生徒会新執行部インタビュー

生徒会長の藪本龍次君

副会長の中西秀夫君

副会長の小西直人君

このたび改選された、生徒会新執行部の皆さんが抱負を語った。

▽生徒会長
三年二組　藪本龍次君
「今年の抱負は、『昨年できなかったことをすること』です。昨年は副会長をさせていただき、『文化祭を二日にしたい』や『文化祭にお笑い芸人を呼んでほしい』などの意見をいただきましたが、生徒会の実力不足で、どれも実行されずに提案だけとなってしまいました。今年はもっと生徒の皆さんからの意見を生徒会で話し合い、一つでも多く実現したいと思います」

▽生徒会副会長
三年二組　中西秀夫君
「昨年に続き生徒会長を希望していたのですが、現会長が僕以上に生徒会の運営に意欲を燃やしていたので、副会長として会長と力を合わせて生徒会活動に携わりたく思い、立候補しました。皆さんから『良かったな』といわれるような生徒会にしていきたいと思います。新翔生は体育クラブに参加している生徒が少ないので、今からでも体育クラブに加入して汗を流し、活発な学校にしてほしいと思います」

▽生徒会副会長
三年三組　小西直人君
「体育祭や文化祭など、生徒の皆さんが参加する行事をさらに充実させ、みんながいっそう楽しめるようにしたいです。生徒の皆さんには、ゴミを校内に捨てず、もっときれいな学校にして欲しいと思います」

健闘するも高野山に惜敗
硬式野球部

7月10日、第91回全国高校野球選手権和歌山大会に臨む硬式野球部の壮行会が開かれ、七瀧校長、生徒会長の藪本君がそれぞれ激励の言葉を述べた。

7月12日、紀三井寺球場は朝から快晴で、蒸し暑いスタンドでは生徒会役員、ダンスバトン部員、有志生徒らが懸命の声援を送り続けた。またこの日は、3年生脊古君の後輩に当たる少年野球・太地シータスの皆さんも、元気にスタンドで応援してくれた。

一回表、新翔は赤松君のヒットと2つの四球で二死満塁のチャンスを迎えたが、後続が惜しくも凡退した。二回裏、高野山は新翔守備陣の乱れを突いて3点を挙げた。新翔は五回にも二死満塁のチャンスを迎えるが、あと一本のヒットが出ない。高野山も、新翔の1年生投手、栗栖君のスライダー、チェンジアップで緩急をつけた丁寧な投球の前に追加点を奪えず、こう着状態かと思われたが八回、一死一、二塁からスクイズを成功させ、貴重な追加点を挙げた。新翔は九回、栗栖君が一塁線を破る三塁打で出塁、慌てた高野山投手の暴投で生還し、一矢を報いた。

敗れたものの1年生の活躍などで、今後の躍進に期待できる試合だった。

クラブ紹介

ダンスバトン部

ダンスバトン部は現在、3人で活動している。活動内容は季節に応じて変化し、7月までは、主に硬式野球部の夏の大会を応援することに力が入る。勝利を祈願して千羽鶴やお守りの鶴を作り、紀三井寺球場では力いっぱい応援した。

また9月の体育祭ではバトンやフラッグを用いた演技をしながら入場行進を行う。10月の文化祭では舞台発表を予定しており、オリジナルダンス披露のため、現在制作中。「ぜひ文化祭での舞台を楽しんでくださいね。人数は少ないですが、元気で明るくをモットーに、みんなで一致団結して一つの活動に取り組んでいます。応援、よろしくお願いします」